

論 壇

親子健康手帳と歯科保健

沖縄県福祉保健部 国保・健康増進課
主任技師 比 嘉 千賀子

平成21年度から使用されている新しい親子健康手帳をご覧になったことがおありでしょうか。

沖縄県小児保健協会が他府県での作成状況を調査し、1年近く検討を重ねた後、県下全市町村で採用されています。

歯科に関する内容の充実は、歯科関係者として大変嬉しく思っています。

さて、幼児、児童生徒が高率で有している疾患にむし歯があります。

3歳児歯科健診でのむし歯有病者率は平成21年度で38.51%であり、全国平均は22.95%でした。沖縄県は47都道府県中47位という状況が続いています。また、永久歯のむし歯の状況として12歳児のむし歯等数で比較されますが、沖縄県は2.9本、全国は1.4本と2倍を越える差があり、全国47位となっています。

市町村、保育所や学校においては、むし歯の状況を改善するため様々な取り組みが行われてきています。

親子健康手帳には、乳歯や永久歯の生える時期や時期に応じたむし歯予防のポイント等についてかなり詳しい解説が掲載されています。加えて、歯科健診結果を記載する欄も従来より増えており、家庭での取り組みを後押しする構成になっています。

歯科医院においても、子どもの成長過程の記録である親子健康手帳の活用が図られれば、むし歯の状況もかなり改善されると期待しています。

歯や舌を含む口腔（こうくう）は、出生直後から生命維持にかかせない哺乳や離乳以降の生涯を通じた食生活を支える重要な役割を担っています。

平均寿命が女性で86歳、男性で79歳という今日、高齢になっても自分の歯で食事や会話を楽しみ、心豊かな生活を過ごすことを誰もが望んでいると思います。

乳幼児期からの歯や口の健康を保っていく生活習慣の形成・定着に親子健康手帳が活用されることを期待しています。